

# 支那の画

芥川龍之介

青空文庫



## 松樹図

雲林うんりんを見たのは唯一つである。その一つは宣統帝せんとうていの御物ぎよぶつ、  
 今古奇觀きんこきくわんと云ふ画帖ぐわてふの中にあつた。画帖ゑの中の画は大部分、  
 薰其昌とうきしやうの旧蔵かかに係るものらしい。  
 雲林筆うんりんひつと称となへる物は、文華殿ぶんくわでんにも三四幅ふくあつた。しかしそ  
 の画帖ゆうけいの中の、雄勁ゆうけいな松の図に比べれば、遙かはるに画品の低いも  
 のである。

わたしは梅道人ばいどうじんの墨竹ぼくちくを見、黄大癡くわうたいちの山水さんすゐを見、王わうし  
 叔明ゆくめいの瀑布ばくふを見た。(文華殿の瀑布図ではない。陳宝琛ちんほうしん氏

蔵の瀑布図である）が、氣稟きひんの然らしむる所か頭さかの下つた事を云へば、雲林の松に及ぶものはない。

松は尖つた岩の中から、真直まつすぐに空へ生え抜いてゐる。その梢こずえには石英せきえいのやうに、角張つた雲煙うんえんが横はつてゐる。画中の景はそれだけである。しかしこの幽絶な世界には、雲林うんりんの外ほかに行つたものはない。黄大癡くわうたいちの如き巨匠さへも此処ここへは足を踏み入れずにしまつた。況いはんや明清みんしんの画人をやである。

南画は胸中の逸氣いつきを写せば、他は措おいて問はないと云ふが、この墨しか着けない松にも、自然は髣髴はうふつと生きてゐはしないか？

油画あぶらゑは真しんを写すと云ふ。しかし自然の光と影とは、一刻も同一と云ふ事は出来ない。モネの薔薇ばらを真しんと云ふか、雲林の松を仮か

と云ふか、しよせん所詮は言葉の意味次第ではないか？ わたしはこの  
 図を眺めながら、そんな事も考へた覚えがある。

### 蓮鷺図

しがなほや志賀直哉氏の蔵するそうぐわ宋画に、れんくわ蓮花とさぎ鷺とをえが描いたのがある。  
なんびん南蘋などの蓮の花は、この画ゑよりもいはゆる所謂写生に近い。花瓣の  
うす薄さや葉のくわうたく光沢は、もつとによじつ如实に写してある。しかしこの  
 画の蓮のやうに、くうれいたんたう空靈澹蕩たる趣はない。

この画の蓮は花でも葉でも、ことごとく悉どつしり落ち着いてゐる。殊に  
 蓮の実の如きは、古色を帯びた絹の上に、その実の重さを感じし

める程、金属めいた美しさを保つてゐる。鷺さぎも亦また唯の鷺ではない。背中の羽根を逆さかさに撫なでたら、手の平に羽先はてきがこたへさうである。かう云ふ重々しい全体の感じは、近代の画にないばかりではない。大陸の風土に根を下おろした、隣邦の画にのみ見られるものである。日本の画は勿論もちろん支那の画と、親類同士の間からである。しかしこの粘ねばり強さは、古画や南画にも見当らない。日本のはもつと軽みがある。同時に又もつと優しみがある。八はち大だいの魚や新羅しんらの鳥たいがさへ、大雅たいがの巖あそ下に游あそんだり、蕪村ぶそんの樹上すに棲すんだりするには、余たくまりに逞たくましい気がするではないか？ 支那の画は実に思ほかひの外、日本の画には似てゐないらしい。

## 鬼趣図

天津てんしんの方ほう若じやく氏のコレクションの中に、珍しい金冬心きんとうしんが一幅あつた。これは二尺に一尺程の紙へ、いろいろの化け物を描かいたものである。

羅らりやうほう両峰の鬼趣きしゆづ図とか云ふのは、写真版になつたのを見た事があつた。両峯は冬とうしん心の御弟子おでしだから、あの鬼趣図のプロトタイプも、こんな所にあるのかも知れない。両峯の化け物は写真版によると、妙ぶきみに無気味な所があつた。冬心のはさう云ふ妖気えうきはない、その代りどれも可愛げがある。こんな化け物があるとすれば、夜色も昼よりは明るいであらう。わたしは蕭々せうせうたる樹木あひだの間に、

彼等の群つたのを眺めながら、化け物も莫迦には出来ないと思つた。

何とか云ふ独逸出来の本に、化け物の画ばかり集めたのがある。その本の中の化け物などは、大抵見世物の看板に過ぎない。まづ上乘と思ふものでも何か妙に自然を欠いた、病的な感じを伴つてゐる。冬心の化け物にそれがないのは、立ち場の違つてゐる為のみではない。出家庵粥飯僧の眼はもう少し遠方を見てゐたのである。

古怪な寒山拾得の顔に、「靈魂の微笑」を見たものは、岸田劉生氏だつたかと思ふ。もしその「靈魂の微笑」の蔭に、多少の悪戯を点じたとすれば、それは冬心の化け物である。この

水墨の薄<sup>うす</sup>明<sup>あか</sup>りの中に、或は泣き、或は笑ふ、愛すべき異類<sup>いるゐいぎよ</sup>異<sup>い</sup>形<sup>う</sup>である。



# 青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>)

で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

# 支那の画

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>